

序文 正しい信仰の体系を立てる原理と方法

「救いに至らせる正しい信仰を持とうとすれば、キリスト教が教える信仰の体系、つまり、神を知る知識の内容をどのように学んだら良いのか。」これは、今日、この時代においても、正しいキリスト者になるために、家庭と教会は、どのように子供と聖徒を教えなければならないのか、さらに進んで、御言葉の働き人になるためには、本人自身はどのように神学訓練を受けるべきなのかという必須的な質問です。

中世時代の靈的暗黒期から宗教改革の黎明期に入りながら、宗教改革者たちは、この質問に答えようと絶え間ない努力をしました。それで、マルチン・ルターは「小教理問答書」と「大教理問答書」を作成し、ジャン・カルヴァンは「ジェネバ教理問答書」と「キリスト教綱要」を書きました。また清教徒時代には「ウェストミンスター信仰告白書」と「小教理問答書」、「大教理問答書」を作りました。

救いに至らせる神を知る知識を得るためには、子供や救いの信仰を求める者が、すぐに旧・新約聖書 66 巻を読み、自分の信じる内容を整理するのは簡単なことではありません。最も、偽りの教えや誤りが大いに流行するこの時代こそ、正しい信仰の体系を自ら取得すると言っても、時間的にも方法論的にもとても困難なことだと言えます。それゆえ宗教改革者たちは、先ず、救い信仰の体系、あるいは、その信じることを組織的に学ぶのが優先だと考えて、教理問

答書と信仰告白書を作成しました。それは、聖書全体の内容を体系的に要約したものだと言えます。それを17～18世紀には「神学体系」(Body of Divinity)と呼び、19世紀から今日に至るまでは「組織神学」(Systematic Theology)と呼んでいます。

正しい信仰のためには、牧会者でも一般信徒でも、先ず、信仰、あるいは、神学の体系を整えなければなりません。そして、ここで「神学」とは、神の御前に正しい信仰生活をするための、神を知る知識体系の学問と言えます。この体系を持っていてこそ聖書を正しく理解することができ、また同時に、聖書を正しく解釈することができます。この体系は、すでに宗教改革者たちと清教徒たちが発見して整理して置いたので、特にジャン・カルヴァンの「キリスト教綱要」と清教徒たちが作成した「ウェストミンスター信仰告白書」に良く表れています。

この書は、偽りと誤りが溢れているこの時代に、聖書を通して正しい信仰を体系的に学ぼうとする者が、正しい救い信仰と神学を体系立てようとする時に、助けになるよう書きました。従って、宗教改革者たちと清教徒たちが立てた神学の体系に従いながら、今日を生きるキリスト者と、正しい信仰を追い求める者たちの質問に具体的に答えています。さらに進んで、彼らが神学の体系を堅く立てて、贖い主・神を知る知識 (saving knowledge of God) を得させることに、その目的を置いています。また、教会で52週に渡って教えながら学べるように構成されているので、牧会者や一般信徒は勿論で、祖国教会のために真理を追究するキリスト者たちが、正しい信仰と正しい神学を体系立てようとする時、便利に使用できるようになるでしょう。どうぞ、この書を通して、正しい救い信仰と正しい神学を学ぶ間に、主が読者たちに恵みをお与えになり、

贖い主・神を知る知識の広さと深さが増して行くことを切に祈ります。

－恵みの受恵者 金チャンヨン、金洪晩 牧師